

日々の祈り

2021年9月6日(月)～11日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・世界中の、争いや大きな災害の中にある人々、迫害や飢えに苦しんでいる人々に、必要な助けと平安が与えられるように。
- ・コロナ禍の混乱や苦しみが一日も早く収束するように。
- ・今月も宮崎中部教会に連なる一人一人の歩みが神さまのお守りと祝福のうちにありますように。

6日(月)

ルカによる福音書 17章 25節

しかし、人の子はまず必ず、多くの苦しみを受け、今の時代の者たちから排斥されることになっている。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。イエスさまは、わたしたちを神さまの恵みのご支配に生かすために、わたしたちの悩み苦しみも、罪も死も、すべてを背負って十字架に架かって下さいました。わたしたちが苦しみの現実の中にある時、このイエスさまの十字架の出来事をこそ見つめるべきです。この方が共にいて支え導いて下さると信じるからこそ、わたしたちは悩み苦しみをこの方の背に委ねつつ忍耐して歩み、将来の来たるべき終わりの日、神の国の完成の日を、希望を持って待ち続けることが出来るのです。

7日(火)

使徒言行録 14章 21～22節

二人はこの町で福音を告げ知らせ、多くの人を弟子にしてから、リストラ、イコニオン、アンティオキアへと引き返ししながら、弟子たちを力づけ、「わたしたちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なくてはならない」と言って、信仰に踏みとどまるように励ました。

パウロとバルナバは、教会を訪ねて信仰に踏みとどまるように励ましました。「わたしたちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なくてはならない」。パウロは教会が迫害や苦しみを経験することをよく知っていたのです。しかしそれは、十字架の苦しみを通して神の国を実現し、復活と天の栄光に与られたイエスさまに結ばれるからこそ、わたしたちもまた、イエスさまの苦しみに共に遭う者とされるのです。ですから、やがて復活と栄光にも必ず共に与ります。

8 日(水)

箴言 3 章 5～6 節

心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず 常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば／主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる。

主にのみ、心を尽くして信頼するべきです。自分の分別は何の役にも立ちません。わたしたちは自分の思い、自分の願い、自分の良し悪しで物事を見つめ、判断しようとしします。それでは、主と共に歩む道を、正しくまっすぐに歩くことが出来ないのです。でも、わたしたちが常に主を覚えて自分の道を歩くなら、主にのみ信頼して歩くなら、主なる神ご自身が、わたしの道を整え、まっすぐにして下さるのです。

9 日(木)

フィリピの信徒への手紙 3 章 20 節～4 章 1 節

しかし、わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。キリストは、万物を支配下に置くことさえできる力によって、わたしたちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです。だから、わたしが愛し、慕っている兄弟たち、わたしの喜びであり、冠である愛する人たち、このように主によってしっかりと立ちなさい。

わたしたちは、キリストによって与えられる栄光の時、復活の時を待ち望みつつ、天の本国に向かって歩んでいます。だからこそ、今生かされているこの時を、主によってしっかりと立ちなさい、十字架と復活の主と共にある恵みによって、立たされ、強められ、目標を目指して歩んでいきなさい、と励まされているのです。

10 日(金)

創世記 19 章 16～17 節

ロトはためらっていた。主は憐れんで、二人の客にロト、妻、二人の娘の手をとらせて町の外へ避難するようにされた。彼らがロトたちを町外れへ連れ出したとき、主は言われた。「命がけて逃れよ。後ろを振り返ってはいけない。低地のどこにもとどまるな。山へ逃げなさい。さもないと、滅びることになる。」

次の主日礼拝の御言葉です。イエスさまは、弟子たちに神の国の完成の日を待ち望みつつ、イエスさまの十字架をこそ見つめて歩むようにと教えられた後で、ロトの話をなさいました。ソドムとゴモラが滅ぼされる時、主なる神さまはロトの家族を憐れんで逃れさせられました。しかし、振り返ってはいけないと言われたのに、ロトの妻は振り返り、塩の柱になってしまいます。自分の生活、持ち物を惜しみ、心を引かれたからです。信仰の道を歩む時、わたしたちは自分のものに依り頼むことを止め、命がけて、どこまでもひたすらに、イエスさまを見つめて進んでいかなければなりません。

11 日(土)

ルカによる福音書 17 章 33 節

自分の命を生かそうと努める者は、それを失い、それを失う者は、かえって保つのである。

明日の主日礼拝の御言葉です。「自分の命を生かそうと努める者」とは、自分で自分の命を生かそうとすること、自分の力や努力によって、自分の命を守ろうとすることです。しかしわたしたちは、イエスさまの十字架と復活の命に結ばれることによってしか、まことに永遠の命に与り、命を保つことは出来ません。イエスさまに従う道は、苦難があり、迫害があると告げられています。しかし、この方が共にいて下さるところにこそ、何にも滅ぼされないまことの命があるのです。

聖句:日本聖書協会『聖書 新共同訳』